

米国政府が描く人工知能の未来

◆米国政府が人工知能の未来に関するレポートを発表

碁などのゲームのチャンピオンに対する勝利、医療診断などへの応用、画像データからのパターン抽出など、人工知能（AI）に関するニュースは後を絶たない。そうした中、2016年10月12日、米国政府はAIの未来に関するレポート（Preparing for the Future of Artificial Intelligence）を発表した。同時に、AI研究開発の戦略的計画（National Artificial Intelligence Research and Development Strategic Plan）も発表され、米国政府のAIに対する取り組みが示された。

「レポート」では、AIの現状、既存あるいは今後の応用、AIの発展が社会に与える影響、将来への提言についてまとめている。例えば、AIをどのように社会福祉に役立てるか、自動走行などへの応用でイノベーションを促進しつつ大衆を守る規制をどう行うか、公平で安全で制御可能なAIの開発は可能か、高度技術を持つ多様なAI人材をどう育成するか、などが議論されている。

「戦略的計画」では、米国予算の支援項目として、1)AI研究に必要な長期的な投資、2)人間とAIの協力に有効な手段の開発、3)AIの倫理的、法的、社会的な影響の理解と解決、4)AIシステムの安全性とセキュリティの確立、5)AIの学習と検査に必要な共有公開データセットと環境の提供、6)AI技術の標準とベンチマークによる測定と評価、7)AIの研究開発に必要な人材の育成、を取り上げている。

◆英国議会在人工知能と雇用との関わり、倫理的な問題などをレポート

16年9月には、英国議会在ロボットとAIに関するレポート（Robotics and artificial intelligence）を発表している。その中では、人間とAIの雇用の奪い合い、AIの抱える倫理的、社会的問題などが取り上げられている。一般大衆にとって、急速に発達するAIは、有用な技術である以上に、雇用問題に不安を与えるものであり、倫理的に信頼できないものであるという側面がある。

米国政府の「レポート」と「戦略的計画」は、そうした一般大衆のAIに対する不安感や不信感に答えつつ、将来的なAIの有効活用するに向けた道筋を描いたものになっている。

【戸潤一孔】